

昭和史の舞台 ―「国指定史跡 荻外荘（近衛文麿旧宅）」



概要

杉並区荻窪の閑静な住宅街に佇む荻外荘は、大正天皇の侍医頭を務めた医学者・入澤達吉の別邸「楓荻荘」として、昭和2年(1927)に建てられました。設計は築地本願寺などの設計で知られる伊東忠太が行いました。

この邸宅は、昭和12年(1937)11月、首相を務めていた近衛文麿に譲られ、西園寺公望によって「荻外荘」と名付けられました。荻外荘は、近衛の生活の場であると同時に、政治空間としても機能し、第二次近衛内閣の基本方針を話し合った「荻窪会談」(昭和15年(1940)7月19日)や、対米和平について話し合った「荻外荘会談」(昭和16年(1941)10月12日)をはじめとして、重要な政治会談が数多く行われました。

このような経緯を持つ荻外荘は、平成28年(2016)3月1日、日本政治史上重要な場所として国の史跡に指定されています。

整備復原工事

荻外荘の東側半分は昭和35年(1960)に区外へ移築されていましたが、近衛が重要な会談を行った、昭和15年(1940)～16年(1941)頃の姿に復原するため、令和4年(2022)6月、移築部分の再移築工事を含む復原整備工事を開始しました。創建時の部材を可能な限り使用し、古図面や古写真、同時代の類例、有識者の意見を参考に進め、日本の伝統技術の職人の手によって家具・調度類も復原しました。



復原された客間 「荻窪会談」はこの部屋で行われました。

てきがいそう

また、近衛が自決した書斎は、当時の姿を留めていたことから、現状保存しつつ、工事を進めました。

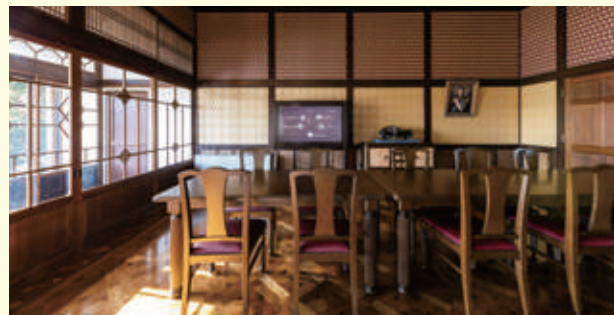
令和6年(2024)10月、一連の工事が完了し、同年の12月より一般公開しています。

公開活用

荻外荘の食堂にはモニターが置かれ、近衛文麿や入澤達吉、伊東忠太の映像資料や復原工事映像を観ることができます。邸内に設置してあるタブレットでは、AR(拡張現実)で再現した「荻窪会談」や、VR(仮想現実)で製作した昭和12年頃の荻外荘庭園風景を通して、近衛が荻外荘で暮らした当時の空気感を視覚的に体感できるようになっています。

また、本年の7月には、隣地に建築家・隈研吾氏設計の展示棟が完成する予定で、展示棟1階はカフェとショップが設けられます。

荻外荘は、近隣の大田黒公園(大田黒元雄旧宅)・角川庭園(角川源義旧宅)とともに荻窪三庭園として一体的に運用されており、杉並区では、荻外荘をはじめとした地域の文化財の保存と更なる活用、荻窪地域の活性化を図っています。



復原された食堂

荻外荘へのアクセス ※駐車場はございません。
 ・JR中央線・東京メトロ丸ノ内線「荻窪駅」南口 徒歩15分
 ・関東バス荻窪駅南口のりば1「荻51」シャレール荻窪行き
 ・特養ホームおぎくぼ紫苑下車 徒歩5分
 ・グリーンスローモビリティ「荻窪駅西口～荻外荘公園」
 乗車6分、下車すぐ

問合せ先
 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課
 Tel 03-3312-2111



編集後記

今回、令和6年に復原工事が完了した文化財(土浦家住宅・荻外荘)についてそれぞれ紹介しました。一般公開される日に、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

令和7年3月31日
 発行 東京都教育庁地域教育支援部管理課
 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
 電話 03(5320)6862

令和7年(2025年)3月31日
 東京都教育庁地域教育支援部管理課

第137号

東京の文化財



学士会館 外観(千代田区)



大沢の山葵栽培農家 建造物外観(三鷹市)



旧前田庭園 洋館の東庭園(目黒区)

目次

東京都指定文化財の新指定	1～3
土浦家住宅の復原・移築	4～5
文化財を活かす(あきる野市・西東京市)	6～7
昭和史の舞台 ―「国指定史跡 荻外荘(近衛文麿旧宅)」(杉並区)	8

東京都指定文化財の新指定

東京都教育委員会は、東京都文化財保護審議会（会長 朝賀 浩）から答申を受け、令和7年3月6日、3件の新指定を決定しました。

東京都指定有形文化財（建造物）	がくし かいかん 学士会館
所在地	千代田区神田錦町三丁目 28 番地 1
所有者	一般社団法人学士会
構造形式及び 大きさ	鉄骨鉄筋コンクリート造 5 階建（塔屋 3 所を含む）、スクラッチタイル及び人造石張り、 建築面積 998.48 平方メートル



1 階広間



2 階旧大食堂

本件は、学士会が会員の親睦と交流を図ることを目的として昭和3年（1928）に再建した会館で、食堂や娯楽室、事務室などの社交倶楽部としての機能と学术交流の場として大小の集会室が備えられた倶楽部建築です。大正・昭和期に活躍した建築家・高橋貞太郎が、師である佐野利器の指導を受けて設計を手がけました。

非対称のL字形平面に大小の部屋を階毎に巧みに配置し、これに対応して異なる階高を立面に収めて一つの建物に見事にまとめ上げられています。内装は、当時の最上級で最新の材料を採用して威厳や品格の感じられる意匠設計がなされ、構造は、耐震耐火を重視した鉄骨鉄筋コンクリート造の早い例であり、戦前の倶楽部建築の好例として意匠的、技術的に優秀です。

また、都心に残る数少ない復興建築の一つであり、関東大震災からの復興の歴史や近代建築様式の習熟と発展を示すものとして学術的価値が高いです。



立面図（西面）



立面図（南面）

旧加賀藩主であった前田家の、第16代当主である前田利為侯爵が、文京区本郷の本邸を東京帝国大学の震災復興の整備のため、農学部用地のあった駒場と土地交換し、造営したものが前田本邸です。上屋敷に起源を持つ本郷本邸の機能を継承しつつ、より近代的な本邸として建設した邸宅と庭園です。

本邸を構成する主な建物は洋館と和館であり、それぞれ洋風庭園及び和風庭園が一体的に構成されます。和洋の文化を取り入れた華族の文化が円熟し、最終期を迎えた昭和初期における貴顕の生活及び邸宅の全体像を知ることができる遺構として貴重です。

昭和6年（1931）の庭園完成後、前田家居住期、占領国軍接收期、駒場公園期と所有者の変遷はありましたが、造営当時の地割が良好に残されています。

洋風庭園の設計者、原熙は造園学に大きな影響を与えた人物であり、その作例は希少です。和風庭園の設計者、西川一草亭は当

東京都指定有形民俗文化財	おおさわ わさびさいばいのう か 大沢の山葵栽培農家 建造物 1 棟 関係民具 8 点 附 箕輪家文書 232 点
所在地	三鷹市大沢二丁目 17 番 3 号
所有者	三鷹市



レーキ

箕輪家文書



ザシキより山葵田を望む

大沢の山葵栽培農家は、明治35年（1902）に建設された四つ間取りの典型的な農家です。山葵栽培を生業として営む農家として数度の改築を経て、昭和49年（1974）まで住宅として使用されていました。

建物の10メートル東にハケ（国分寺崖線）が南北に走り、ハケから出る湧水を利用した山葵田に向き合う東側を正面として建てられています。建物とハケの間には山葵田が現存し、周辺では初夏にホタルが飛び交います。また、野川の対岸には都指定有形民俗文化財の「武蔵野（野川流域）の水車経営農家」があります。豊かな自然に囲まれた風景が広がる中で、ハケから出る湧水を利用した山葵田と住居で構成される屋敷構えが特徴です。

民具は建物と同時に箕輪家から寄贈されたもので、山葵栽培に使われた農具及び、箕輪山葵園の半纏、山葵が描かれた手拭いからなります。古文書232点は箕輪家伝来のもので、近世末から明治期にかけての山葵の栽培や売買に関する書上や書簡からなります。山葵栽培農家としての箕輪家の足跡が分かる資料です。

本件は、武蔵野の山葵栽培農家の住宅として120年余の歴史を持ちます。周辺に崖線沿いの緑や湧水、山葵田が残り、野川流域の農村生活を伝える貴重な文化財です。山葵農家が用いた民具や山葵の栽培・出荷を記録した古文書とともに、都民の基礎的な生活文化の特色を示す有形民俗文化財として貴重です。



ヒロマよりザシキを望む

時の上流階級の庭園を手掛け、前田家とも墓所や別邸の庭園を設計するなどゆかりが深かったですが、現在良好な状態で残っていると確認できる作品は少ないです。両者の作庭例が良好に残る例としても希少であり、芸術的、学術的価値も高いです。



和風庭園の築山・滝・流れ



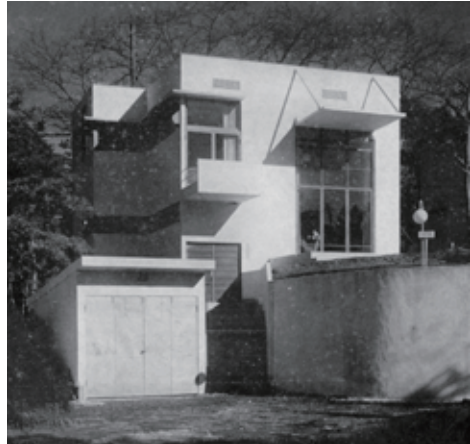
煎茶室跡から主庭を望む



芝庭から洋館を望む

土浦家住宅の復原・移築

品川区教育委員会事務局 青野 誠



1935年創建当時（土浦亀城アーカイブズ提供）



2021年当時 写真左側部分が増築されている



2024年復原・移築後

土浦家住宅の特徴と魅力

土浦家住宅（土浦亀城邸）は、モダニズム建築家・土浦亀城（1897-1996）と信（通称信子、1900-1998）夫妻が設計し、昭和10年（1935）、長者丸と呼ばれていた品川区上大崎に建築した第二の自邸です。この建物が、令和6年（2024）に港区南青山へ復原・移築されました。

この建物は、地上2階、地下1階の木造乾式工法による住宅建築で、白い箱状の外観に、居間に設けられた南向きの大きな窓が特徴です。内部は、旧立地の高低差を活かし、地下1階から地上2階まで、中2階のスキップフロアを含めた四層構造となっており、さらに廊下を廃することで居住空間を広くとる工夫がなされています。

天井パネルヒーティングなどの暖房設備や洋式水洗トイレ、シャワーを備えたタイル張りの浴室などは、建築当時としては極めて先進的かつ合理的なもので、現在の都市型小住宅へとつながるものといえます。これらの工夫は、土浦夫妻が近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトに師事するため、アメリカに渡って生活した経験が反映されたものと指摘されています。

こうした建築史上の価値の高さから、平成7年（1995）には東京都指定有形文化財に、平成11年（1999）にはDOCOMOMO Japan選定の貴重な近代建築20選に選ばれました。



2021年当時 居間

南青山へ移築された経緯

土浦家住宅は地域にとっても貴重な文化財でしたが、経年による木材の痛みも激しく、建物を一度解体・調査したうえで抜本的な保存修理工事を行う必要に迫られていました。

しかし、建物が立地する土地は必ずしも地盤が強固ではなく、木造建築の長期保存には不安があること、加えて周囲は閑静な住宅街であるため、改修後に建物を公開し多数の見学者が訪れた場合、近隣の住宅環境を損なうことが懸念されました。こうした文化財の保存と活用にかかる課題を解決すべく、文化財所有者・専門家・行政が協議を重ねた結果、より維持管理に適した土地へ、建物を移築し復原することになったのです。

折しも同時期、南青山でポーラ青山ビルディングの建築が計画されていました。当該地は住宅地のなかに位置し、上大崎の地とほぼ同様の勾配があったため、土浦家住宅の周辺環境と構造を変えることなく移築が可能な条件が揃っていました。そこで、関係者協議のうえ、この敷地内に建物を移築し同ビルを所有する（株）ピーオーリアルエステートによって所有、管理がなされる運びとなりました。



2024年 居間

復原の方針

土浦家住宅の復原にあたっては保存活用計画が策定され、創建時から用いられている部材を最大限活かしつつ、後補部分については、可能な限り創建時の意匠に復する方針が採られました。

計画策定の過程では、玄関左手側にあたる増築部の取り扱いが問題となりました。この箇所は昭和13年（1938）に増築されたものの、後にその一部が減築された経緯があり、いつの時点の状態に復原するのか検討を要したのです。

文献調査を進めた結果、増築時の資料は乏しく、この当時のすがたへの完全な復原は困難が予想されました。対して、創建時については、竣工図面のほか土浦夫妻が所蔵していた写真などが発見され、ほぼ完全なすがたを再現できることが明らかになりました。そのため増築部分を撤去し、昭和10年（1935）創建当時のすがたへ復原することが決定したのです。これに合わせ、家具やカーテンなどについても、創建時に用いられたものを修繕または再現することとなりました。

復原・移築にともなう調査の成果

復原にあたっては、上述のような文献調査のほか、建物解体中に実施した色彩こすり出し調査の成果が反映されました。

土浦家住宅は80年以上利用されるなかで、度重なる塗装が施され建物内の色彩も変化していました。そこで、各部材をサンドペーパーでこすり出し、木材の直上に塗られた色、すなわち創建時の色合いを突き止めたのです。



階段色彩のこすり出し調査



地下1階の解体中に発見されたレンガ基礎

また、調査を進めるなかで新たな発見もありました。地下1階を解体中、壁の内部からレンガ基礎が現れたのです。古図面と照合した結果、これは土浦家住宅が建築される前に建っていた建物の基礎を転用したものと判明しました。土浦家住宅の特徴である四層構造は、土地の勾配を活かしたアイディアと考えられていましたが、今回の発見により、夫妻が既存の建物を巧みに再利用しながら、土浦家住宅を設計したことがわかったのです。

これら調査結果は、当時の建築技術や意匠を知るうえでも貴重な成果といえるでしょう。

一般公開と文化財の活用

現在、土浦家住宅は月に2日ほど一般公開されています。ここでは見どころの一つ、書斎についてご紹介します。2階の角部屋に位置する書斎は、建物角の二面に連続する窓を有しており、モダニズム建築の特徴をよく表しています。この窓は昭和13年（1938）の増築で失われていましたが、今回の復原によって創建時のすがたに蘇りました。書斎内では、撤去された増築部で使われていた部材や土浦夫妻の遺品が展示されており、土浦家住宅、そして土浦夫妻の歩んだ歴史と魅力を存分に味わうことが可能です。復原・移築されたこの機会に、ぜひともご覧いただければ幸いです。

末筆ながら、土浦家住宅の復原・移築にあたり、ご助言・ご協力いただきました関係者の皆様へ、記して心より御礼申し上げます。



2021年当時 書斎 増築部につながるドアが設けられていた



2024年 書斎 増築部が撤去され、創建当初の窓が復原された

所在地：〒107-0062 港区南青山2-5-13
アクセス：東京メトロ銀座線「青山一丁目」駅から徒歩3分
※見学には事前予約が必要。
詳細は下記
(株)ピーオーリアルエステート HP を参照
<https://www.po-realestate.co.jp/business/aoyama-tsuchiurakameki.html>





文化財を活かす(あきる野市)

あきる野市の誇るヤマザクラと戸倉城山

戸倉城山について

JR 五日市線の終点、武蔵五日市駅から西へ約 3 km の場所に戸倉の城山があります。「戸倉城跡」として東京都の史跡にも指定されており、一部がハイキングコースとしても整備され、登山初心者の方でも登りやすいコースです。

戸倉城は標高 434.1 m の山頂に作られた山城で、室町時代から戦国時代にかけて築かれたものです。通称「城山」と呼ばれています。15 世紀頃に「武州南一揆（武士の集団）」の一員である小宮氏が居住したとの伝承もありますが、築城者や城主は不明です。天正 18 年 (1590) の八王子城の落城とともに廃城になりましたが、現在でも堀や土塁などの遺構が残っています。

頂上からの眺望も良く、あきる野市街はもちろん、東京都心部までも見渡せる絶景スポットです。



光厳寺の文化財

また、山の中腹には光厳寺があります。建武元年 (1334) 創建と伝えられる市内でも有数の古刹で、本堂内には東京都指定有形文化財である「木造釈迦如来坐像」、あきる野市指定有形文化財の「光厳寺絹本着色仏涅槃図」、「光



▲ところ芋の碑

厳寺扁額」（それぞれ通常は非公開）が残されており、また境内にはあきる野市指定文化財「ところ芋の碑（天保七年に起きた飢饉の際の地域のエピソードが記録された石碑）」など、多くの文化財が残されている寺でもあります。

「光厳寺のヤマザクラ」

光厳寺境内の東側の斜面地には、東京都の天然記念物「光厳寺のヤマザクラ」が 4 本あります。中でもひととき目を引く巨大なヤマザクラは幹周り約 5 m、枝張りは東西約 25 m、南北約 18 m を測り、樹齢は約 400 年とも推定されており、都内のヤマザクラでは一番の大きさの老樹です。他の 3 本も幹周りが約 2 m と、それぞれ巨木です。満開になる時期は毎年 4 月上旬から中旬ごろ少し様々ですが、毎年見事な花を一面に咲かせます。

自然あふれる中で優雅に咲き誇るヤマザクラは地域の方のみならず、多くの観光客の方々にも長い間愛されています。地元では「光厳寺の大桜」とも呼ばれ親しまれており、きっとこれまでに長い間、その変わらぬ姿で数多くの人々を感動させてきたことでしょう。



春の訪れとともに暖かくなってくるこれからの季節、戸倉の城山へのハイキングや、光厳寺の文化財や歴史あふれるヤマザクラをご覧ください、あきる野市の歴史と雄大な自然を感じてはいかがでしょうか。

ヤマザクラの開花情報は、あきる野市観光協会のホームページをご覧ください！

【問合せ先】

あきる野市教育委員会教育部
生涯学習推進課
文化財係(五日市郷土館内)
Tel: 042-596-4069 ※月曜休館



文化財を活かす(西東京市)

次の10年へ 成長し続ける史跡「下野谷遺跡」

下野谷遺跡とは

西東京市東伏見二丁目、三丁目、六丁目地内に所在する縄文時代中期（今から約 5 千年から 4 千年前）の環状集落であり、南関東最大級の規模と内容を誇る遺跡です。昭和 48 年 (1973) から本格的な発掘が実施され、縄文時代の大集落がほぼ全域残されていることがわかりました。都市化の進んだ市街地において、非常にまれなことであり、遺跡の規模も大きく内容も豊かであることが認められ、平成 27 年 (2015) 3 月 10 日に西集落の一部が国の史跡に指定されました。

整備事業について

下野谷遺跡では、「縄文から未来へ したのやから世界へ」・「みんなでつくる、つなげる都市部の縄文空間」を保存、活用及び整備のコンセプトとし、平成 31 年度から整備事業を進めてきました。これまでに、都内で初めてとなる土屋根の竪穴住居 2 棟に加え、墓域、土器溜まり（使われなくなった住居跡のくぼ地に土器が集的に残された状況）1 基に、縄文時代の景観を体感できる当時の植生をそれぞれ復元しています。エントランスゾーンには、掲示板のほか、ふるさと納税を活用して製作した説明板を設置しました。また、一般市民からの公募により、整備地の愛称が「したのや縄文の里」と命名され、保存を前提とした「したのやムラ」の魅力や価値を伝える整備が進んでいます。令和 5 年 (2023) 4 月から一般公開を開始し、毎週日曜日には竪穴住居内の開放を行っていますので、是非遊びに来てください。



土器溜まり（発掘調査時の様子）
西東京市図書館 /
西東京市デジタルアーカイブ



下野谷遺跡から出土した土器の一部は、3D 画像としてアーカイブされ、誰でも自由に楽しむことが出来る。

また、本物の土器を身近に楽しめたり、西東京市郷土資料室」も必見！

西東京市郷土資料室

所在地：西東京市西原町 4-5-6
(西原総合教育施設 2 階)
開室時間：水曜日から日曜日の午前 10 時から午後 5 時 (祝日も開室)
※ 1 月 1 日から 4 日、12 月 28 日から 31 日は休室
アクセス：◆西武池袋線「ひばりヶ丘」駅南口・西武新宿線「田無」駅北口から西武バス (境 07・田 44 系統)「西原グリーンハイツ」下車徒歩 3 分
問合せ先：042-467-1183

活用事業について

下野谷遺跡では、毎年、春と秋に普及イベントを実施しています。特に、秋に開催する「したのや縄文の里 秋まつり」は、今年で第 19 回目を迎え、一日で 1,000 人を越える来場者が訪れます。運営スタッフには、地域の商店会や市民団体、ボランティア、学生、下野谷遺跡を愛する「したのやムラびと」、下野谷遺跡を応援してくれる「したのやサポーター」等が参加し、市民と共に作り上げる一大イベントになっています。

現在、下野谷遺跡の出土品は、西東京市郷土資料室に所蔵されており、したのや縄文の里と合わせて、市立小中学校の団体見学・出前授業等に、積極的に活用されています。また、当時のしたのやムラにタイムスリップできる 360° VR や縄文時代のくらしをクイズ等で楽しみながら学べる「VR 下野谷縄文ミュージアム」を製作し、スマートフォン用アプリでの配信や学校教育現場、イベントでの活用を行っています。



したのや縄文の里 秋まつりの様子
(したのやサポーター第 1 号「コソスポ! じょうもんず♪」)



VR 下野谷縄文ミュージアム

これからの下野谷遺跡

令和 7 年 (2025) 3 月 10 日、下野谷遺跡は史跡指定から 10 周年を迎えました。下野谷遺跡の魅力をさらに広め、多くの人々が集うコミュニティの核となる拠点として、ガイダンス施設及び地域博物館の設置を検討しています。

これからも市民や下野谷遺跡を愛する人々が活躍できる取り組みを積極的に実施し、人やまちとともに成長し続ける史跡となるよう、次の 10 年に向けて、歩みを進めていきます。

下野谷遺跡整備地「したのや縄文の里」

所在地：東京都西東京市東伏見 6-4
アクセス：◆西武新宿線「東伏見駅」南口下車徒歩 7 分
◆JR 中央線「吉祥寺駅」北口から西武バス (吉 63・64)、関東バス (吉 55)、「三鷹駅」北口から関東バス (鷹 03) で「東伏見坂上」下車すぐ
問合せ先：042-420-2832 (直通)

イベント情報

◆「縄文のムラで春風と遊ぼう! (春まつり)」例年 5 月開催
◆「したのや縄文の里 秋まつり」例年 10 月開催
◆下野谷遺跡国史跡指定 10 周年記念シンポジウム開催予定